

進路だより

山梨高校 進路支援部

第4号 3/25

令和5年度卒業生の進路決定状況

今年度の卒業生は、1年生の3学期に約3週間のオンライン授業を経験し、1年遅れでスキー・スノーボード教室が実施されるなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響を随所に受けました。看護やリハビリなどの各種体験事業も大幅に制約を受けながらの実施となり、進路決定の過程で不安を感じる事が少なくなかったと思います。そのような中でも目標を見失うことなく地道に努力し、各々の進路希望を実現しました。学校推薦型選抜での進学者が全体の約6割、専門学校への進学者が全体の約3割を占める点は昨年度とほぼ同様でした。

年度末にあたり、今年度の結果について以下のとおり進路別に紹介します。

【進学】

①国公立大学13名

山梨大学工学部の総合型選抜Ⅱ（共通テストを課す）に1名が合格しました。都留文科大学は総合型選抜で1名、公募制推薦で2名の計3名が合格しました。山梨県立大学の公募制推薦では受験者10名中9名が合格という健闘ぶりでした。昨年度に引き続き、県内国公立大学への進学希望者が多い傾向がうかがえます。

②私立大学55名

昨年度と比較して、県内私立大学への進学者の割合が増加しました（39%→44%）。系統別で最も進学者が多かったのは昨年度と同じく法・経済経営・社会系の17名でした。また例年一定数の希望者がいる医療技術系（看護系を除く）への進学者は5名でした。

③短期大学15名

1名以外は県内短大への進学者です。大月短大には指定校制推薦で3名、一般選抜で2名の計5名が進学します。当初から4年制大学への編入学を視野に入れて受験した人もいるので、一つの選択肢として知っておいてください。昨年度より減少しましたが、例年希望者が多い保育系学科には、帝京学園短大と山梨学院短大を合わせて7名が進学します。

④看護系専門学校7名

県内の専門学校4校に7名が進学します。大学を含めた看護系全体の進学者は、昨年度より4名多い計15名と「看護・保育系に強い梨高」の伝統が受け継がれています。

⑤一般専門学校31名

専門学校への進学を希望する人のほとんどは、将来就きたい職業に必要な資格の取得を希望しています。今年度も調理師や美容師、歯科衛生士など明確な目標を持って進学します。学校選択の際は国家試験合格率や就職状況などを忘れずにチェックしましょう。

【就 職】

①民間企業・事業所 4 名

5月の校内ガイダンスを皮切りに、7月の企業説明会、夏休み中の企業見学を経て、9月16日以降に実施される選考試験に臨みました。進学希望者よりも動き出しが早いため、それに合わせた準備が必要となります。

②公務員 4 名

山梨県警察に2名、大月市（消防職）と山梨市（事務職）の職員に各1名と、過去5年間では最も多い4名がいずれも高倍率かつ複数回にわたる選考を突破して合格しました。

本校では毎年2月に、受験に挑んだ3年生から進路決定のプロセスや具体的な取り組み内容、また失敗や反省から学んだ貴重なアドバイスなどを直接聞く機会を設けています。今年度も「後輩の皆さんの参考になるなら」と快く引き受けてくれた大勢の先輩方が、実体験を振り返って熱心に語ってくれ、1・2年生ともにメモを取りながら真剣に耳を傾ける様子が見られました。現時点で明確な進路希望を持っている人も、また曖昧なまま迷っている人も、まずは自分の興味や関心と向き合い、先輩方の話を聞いた中で「まずはこれから始めてみよう」と心に響いたことを実践してみましょう。自ら動かなければ何も変わりません。

なお、詳細な進路決定状況および合格を手にした先輩方の合格体験記は、新年度の4月に発行予定の「進路だより」に特集して掲載します。

新年度の順調なスタートに向けての準備を！

4月8日（月）の始業式までの約2週間のいわゆる春休み期間の過ごし方が、新年度のスタートダッシュの鍵を握っています。次の点を意識して過ごしてほしいと思います。

①基礎学力の定着確認の時間を確保しよう

今年度の各教科の学習内容を振り返り、抜け漏れや極端に苦手な分野はないかの確認が必要です。新学期に入ってすぐに行われる学びの基礎診断（スタディーサポート）の受験に向けて、真摯に課題に取り組み確かな手ごたえが得られるように準備しましょう。

②社会と関わることで視野を広げよう

成人年齢の引き下げに伴い、これまで以上に高校生の社会参加が注目されています。HRでの連絡や掲示物を通して、さまざまな種類や形態のボランティア活動が多く紹介されています。「できる時に、できることから始めてみよう」と一歩踏み出す勇気を持って、積極的に参加してください。

③興味のある大学・専門学校等のオープンキャンパスに積極的に参加しよう

既に2月中から、新高2・高3生対象のオープンキャンパスが多く開催されています。「百聞は一見に如かず」の言葉通り、実際に足を運び自分の目で確認することが重要です。1校のみの見学で「ここ◎いい」と決めるのではなく、複数校を丁寧に比較検討した後に「ここ◎いい」と納得した上で志望校を選択・決定することが大切です。